

第5期横浜市港南区地区センター 第2回指定管理者選定委員会 議事録

開催日時	令和8年8月24日（月） 午後1時00分～午後2時10分
開催場所	港南区役所5階 特別会議室
出席者	小室委員、長沼委員、藤崎委員、宮島委員、宮田委員（計5名）
欠席者	無し
開催形態	公開（傍聴人なし）、議題2（審議）から非公開
議題	はじめに（横浜市野庭地区センターの指定管理者の選定について） 1 面接審査 2 審議
面接審査 ・ 審議	1 野庭地区センター面接審査について 1 団体あたり、10分間のプレゼンテーション及び15分程度の質疑応答を行った。団体のプレゼンテーションの概要は次のとおり。 【プレゼンテーション概要】＜応募団体 一般社団法人こうなん区民利用施設協会＞ ・当団体が管理運営する10施設で蓄積された業務スキルやノウハウ、指定事業の企画等を情報共有し、業務改善に取り組んでいく。また、港南区民活動支援センターとも連携を図る。 ・これまで、Wi-Fi設置の拡充やWEB予約システムの導入等、利用者の利便性向上に取り組んできた。 ・コンプライアンス向上及び個人情報保護については、団体全体で検討・点検する体制を構築している。職員行動基準を定め、施設職員が常に自身の行動を振り返ることで、利用者から信頼を得られる施設づくりを目指す。また、施設での緊急時に備え、セキュリティ対策やAEDの設置・取り扱い訓練を実施し、適切な対応ができる体制を整える。 ・野庭地区は人口減少や高齢化率が港南区平均を上回っており、少子高齢化が進んでいることから、多世代が集いつながる場づくりが重要と考える。地域ニーズを踏まえた施設運営として、健康づくりや介護予防、放課後の居場所づくり、多世代交流事業の実施などに取り組んでいく。 ・利用サービス向上の取り組みとして5つの柱を設定し、施設価値の最大化を図る。利用者数の着実な増加を継続し、第5期では年間90,000人の利用者数を目指す。 ・指定事業ではSDGsの視点を踏まえた魅力ある事業を展開する。参加者同士の交流や子育て支援、仲間づくりを通じて、多世代交流と地域コミュニティの活性化に繋げていく。また、小中学校の総合的な学習の受け入れにより、こどもたちが地域への愛着を育む機会を提供していく。 ・施設及び設備の維持管理計画では、予防保全の考え方を基本とし点検結果の記録を年間保守計画や長期修繕計画に反映することで、安全・快適な環境を保つとともに、コスト最小化に取り組む。 ・利用料金については利用しやすさ、活動支援および稼働率向上の視点で設定する。カラオケの利用促進や指定事業参加者のサークル化への支援など、継続的な利用に繋げていく。また、収支ともにバランスよく確保し、安定した施設運営と利用者サービスの充実を図る。 【主な質疑内容】 ＜委員＞ 低稼働率の諸室の稼働率を向上させるために多目的利用を提案しているが、どのように広報し

ていくのか？

<回答>

和室と料理室の稼働率が低いため、例えば指定事業で料理教室の開催回数を増やしている。利用方法の一例を写真に撮って館内に掲示することで、利用する場面を具体的に想像してもらえるように周知している。ダンスやヨガなどの利用も広めていきたい。体育室以外の居室についても稼働率が50%を下回っているため、多目的利用について広報していきたい。

<委員>

野庭地域ケアプラザとの複合施設だが、危機管理や防災・防犯面ではどのような連携をしているのか。

<回答>

地域ケアプラザ所長やスタッフとの日常的なコミュニケーションが非常に重要だと考えている。例えば、施設内で起きているトラブルなどはその都度情報共有し対応している。

防災の視点では、年2回合同で防災訓練・避難訓練を実施している。また、10月の野庭ふれあい祭りは共催しており、広報や行事開催に伴う事務作業を分担して取り組んでいる。日常的な保守管理や清掃についても、各々の役割と費用分担に基づいて実施している。

<委員>

利用者アンケートの結果で、施設内の雰囲気や職位・スタッフの対応については高評価だが、施設内設備や備品についてはそれらと比べて少し見劣るようである。その理由はなにか。

<回答>

設備面は開館から約四半世紀が経ってきているため、設備の不具合が起きている。空調など利用者にとって直に影響を受ける部分になる。利用者の安全に影響するようなものの修繕を最優先で取り組み、利用者からの要望を実現するような機能改修はニーズ費を活用して取り組んでいる。

<委員>

学校とのつながりは強いようだが、高齢者施設が多い地域の中で他の施設とはどのような連携をしているのか。

<回答>

ケアプラザとの連携はできているが、その他の施設との連携は第5期以降の課題と感じている。

<委員>

人口減少と少子高齢化が進んでいる地域特性をふまえ、利用者数目標はどのように達成するか。

<回答>

野庭地区センターの令和7年度利用者割合を年齢別に見ると、65歳以上の高齢者が36.9%、幼児から高校生までが37.3%であり拮抗している。職業体験や地区センターの見学をきっかけに、施設に興味をもった子どもたちが放課後に利用する機会が増え、利用者増に繋がっている。また、長期休暇には子どもや親子向けの指定事業を意識的に増やすように取り組んでいる。

<委員>

地区センターは利用料金収入が大切な財源だが、稼働率を上げていくための具体的な施策を教えてください。5年間で登録団体をどのくらい増やすかについてや稼働率の目標値はあるか。

<回答>

まずは団体登録を増やしていきたいと考えている。登録団体数を増やすための取り組みとして、指定事業への参加をきっかけにサークル化や団体登録に繋げ、サークル活動で施設を利用いただくよう注力している。

稼働率が全体で50%を切っており、9年度で50%を超えるようにしたい。指定事業からサーク

	ル化へ発展した団体には、一定期間優先利用を促すなど支援を行っている。 <委員> 地域ニーズを踏まえた施設運営として5つの柱を挙げているが、その中でも特に力を入れたい取り組みなど、優先順位はどのように考えているか。 <回答> まずは若年層を増やしていきたい。成長しどの世代になっても長くご利用いただけたと考えている。同時に、利用者層が最も多い高齢者層へのフォローも必要である。また、全世代が楽しめるイベントを増やしていきたい。例えば、ダンスフェスタというイベントでは幼児から高齢者まで幅広く参加しており、特にこどもたちが楽しく参加していると高齢者世代にも非常に喜んでもらえる実感している。 2 審議 【委員意見】 ・施設運営はある程度安定して行われている。少子高齢化が進む地域ではあるが若年層の利用者が減っていない点も評価できる。 ・小中学生向けの取り組みが置く、学校など地域とのつながりが強い点は評価できる。 ・稼働率の低い諸室への対応意欲は感じられる。 ・危機管理に対しては地域ケアプラザとの連携が取れている。 ・高校生以下のこどもたちに、地区センターを知ってもらうための働きかけを積極的に行っている。一方で地区センター来館者へのPRはしているが、外部へのPRが不足しているように感じる。高齢になるにつれて外に出ることが難しいと感じる人もいるので、魅力的な事業を外部にも周知することが必要である。 ・利用者アンケートを踏まえ、設備面や備品に関して改善できると良い。 ・地域ケアプラザや周辺施設との連携はまだ弱いように感じる。 ・高齢者向けの取り組みとして高齢者を中心とした講座の充実化や高齢者施設との連携は改善の余地がある。 ・事業の参加者が継続して施設を利用していくための取り組みについて、内容が曖昧だった。団体活動が減ってきている中で、参加者が継続して利用できるような具体的な工夫が必要だと考える。 ・利用者サービス向上を目的としたアイスクリーム自動販売機の導入を挙げていたが、野庭地区センターの利用者人数や利用者層をふまえて軽食付き自動販売機の導入を検討するのはどうかと考えた。 ・財務状況については、収入・利益ともに増加し、経営は安定していることが伺える。今後の方針としては、利用率の向上を図るとともに、指定事業・自主事業では利用者ニーズに合った企画を増やし、事業収入の強化を進めること、そして健全な支出管理を徹底することが重要だと考えられる。
審議結果	・一般社団法人こうなん区民利用施設協会を横浜市野庭地区センター指定管理者の指定候補者とする（749点/925点）。
特記事項	特になし